



IUFRO-J NEWS

No. 50 (1993.11) —

IUFRO 第20回大会へのご招待

1. はじめに

IUFROの次の大会が、1995年8月6～12日にフィンランドのタンペラで開催されることになりました。フィンランドでのこの大会はかつて1940年に予定されましたが、第2次世界大戦のために開催できませんでした。この国は世界中でもっとも森林率の高い国々に属し、経済的にも林業への依存度が高いので、ここでこの大会が開催されるのはこの国にとって大変意義のあることです。またこの国の林業や林学の歴史を見ると、フィンランドが保続的な林業経営を積極的に推進してきたことがわかります。どうぞ世界中の皆様がこの意義深い大会に参加されるようお勧めします。

2. フィンランドの紹介

自然と歴史

フィンランドは面積約34万平方キロで、東はロシア、西はスウェーデン、北はノルウェー、南はバルティック海を隔ててエストニアに接しています。そのうち森林は70%、湖沼などの内水面は10%に及びます。国全体が亜寒帯に属するので針葉樹林が多く、主な樹種はヨーロッパアカマツ、ノールウェイトウヒ、シラカンバです。旅行者はこの国の森林面積が広いことと、湖が多いことに驚くことでしょう。187,888にも及ぶ沢山の湖が川や運河でつながり、これらの水路は、かつては木材の運搬路として用いられ、この国に繁栄をもたらしました。今でもこの水路は交通路として用いられ、自然の愛好家のために役立っています。

現在フィンランドには共和制が敷かれていますが、12世紀から1809年まではスウェーデン王国の一部でした。1809年にはロシアに併合されましたが、公爵領として自

治が認められており、1917年には独立しました。その間何世紀にもわたり、この国は東と西の文化の接点に位置し、独自の文化を育ててきました。現在この国の音楽・絵画・彫刻などに愛好家が魅力を感じる人が多いのは、こうした理由によるのです。

大会の前後には、北部のラップランド高原から南部の湖沼地帯あるいはオーランド群島まで、全国的に見学旅行が準備されています。隣国のストックホルム、セント・ペテルスブルグ、タリン等へも簡単に行くことができます。その上旅行者にとってフィンランドは、西欧諸国の中でもっともお金のかからない国です。

大会の開催地 タンペラ

大会が行われるタンペラはヘルシンキの北175キロにあり、航空路・鉄道・道路のどれを用いても便利です。人口は175,000人で、全国で3番目の都市です。約200年前に建設され、19世紀以来工業の中心地として栄えてきました。今日では二つの大学を擁し、教育や研究の中心としての役割も果たしています。

タンペラには、大会のためにいろいろと便利な施設が整っています。タンペラ会館・タンペラ大学には近代的で機能的な会議場があり、これらから歩いて通える範囲内に様々なクラスのホテルがあります。タンペラは、大会開催に必要なサービスを提供するには充分な大きさで、一方参加者やその同伴者に家族的な雰囲気を感じさせるには大き過ぎない都市です。森林や湖にも近く、旅行に出かけるのに便利です。8月の第1週の日最高気温は18～25°Cで、雨が降る日もありますが、概ね晴天が多いです。

3. 財政的な援助計画

この大会では、主として開発途上国の若い研究者のた

めに、財政的な援助のプログラムが準備されています。ただしこの大会で研究発表を行う人たちが優先的に援助の対象になります。

しかしこの種の援助活動は、国際協力によって初めて可能になります。このプログラムに関する募金活動は最近に始まったばかりです。一方、援助の対象となる研究者に対する招待状は、1994年のはじめに各国の研究機関に発送されます。

4. 会議・見学旅行等のプログラム

開会式と本会議はタンペラ会館で、各専門部会は近くのタンペラ大学構内で行われます。そして会議が行われている週には、同伴者を対象としたプログラムや半日のツアーが準備されています。

本会議の後には18コースの見学旅行が行われ、8月12日あるいは13日に出発します。各コースはそれぞれ特徴があり、自然科学的な興味だけでなく、同伴者にも魅力のあるアトラクションを含んでいます。以下に18コースのプランを示しますが、これらは今後変更される場合があります。またこれらの内の7コースは近隣の諸国(スカンディナヴィア諸国・バルト3国・ロシア共和国)をも訪れます。

- コース1. オーランド群島の多目的な森林利用
タンペラ→南海岸→オーランド→ヘルシンキ
- コース2. ビルカンマア湖沼地帯の林業
タンペラ→湖沼地帯→タンペラ
- コース3. フィンランドの木材流通と木材工業 (Forest Industry)
タンペラ→フィンランド中央→ヘルシンキ
- コース4. フィンランドの木材工業 (Mechanical Wood Industry) と産物
タンペラ→フィンランド中央→ヘルシンキ
- コース5. 泥炭地の林業
タンペラ→フィンランド中央→ヘルシンキ
- コース6. フィンランドの森林資源と小規模な林業
タンペラ→フィンランド中央→ヘルシンキ
- コース7. 苗木生産と遺伝資源
タンペラ→南東フィンランド→ヘルシンキ
- コース8. サイマー湖沼地帯の林業と自然環境の保全
タンペラ→南東フィンランド→ヘルシンキ
- コース9. 隆起海岸から分水嶺までの林業と環境保全研究
タンペラ→オウル→コスタムス (ロシア共和国) →

カヤーニ

- コース10. 北極圏の林業と林業研究
タンペラ→ロバニエミ→西ラップランド→ロバニエミ
- コース11. ラップランド地方の天然資源の保全と多目的利用
タンペラ→ロバニエミ→東ラップランド→ロバニエミ
- コース12. 広葉樹林の施業と多目的利用
タンペラ→トゥルク→ストックホルム (スウェーデン) →コペンハーゲン (デンマーク)
- コース13. 工業国における林業と農業の発展
タンペラ→トゥルク→ストックホルム (スウェーデン) →オスロ (ノルウェー)
- コース14. 林業と生物の多様性
タンペラ→バーサーウーメオ (スウェーデン) →モー・イ・ラーナ (ノルウェー) →ウーメオ (スウェーデン)
- コース15. コラ半島探訪
タンペラ→イバロ→ラップランド→チルケネス (ノルウェー) →コラ半島 (ロシア共和国) →ロバニエミ
- コース16. 林業と研究・教育におけるフィンランドとロシア共和国との協力
タンペラ→ヨエンスー→カレリア (ロシア共和国) →ヨエンスー
- コース17. セント・ペテルスブルグへの林業探訪
タンペラ→セント・ペテルスブルグ (ロシア共和国) →ヘルシンキ
- コース18. 変貌する社会経済条件下の林業
タンペラ→ヘルシンキ→タリン (エストニア) →リガ (ラトビア) →カウナス (リトニア)
5. その他
- この大会についての詳しい情報、たとえば研究発表のプログラム、見学旅行、宿泊、参加登録や発表への申し込み方法などは、1994年1月に発行されるユフロニュースの大会特集号に掲載されますので、ご覧下さい。また問い合わせは下記宛にお願いします。
- IUFRO 1995年大会事務局
C/O Finnish Forest Research Institute,
Unioninkatu 40 A, SF-00170 Helsinki, Finland
Tel. 358-0-857051
Fax. 358-0-625308
ユフロニュース Vol. 22, No. 2/3 より (訳 丸山明雄)

国際ワークショップ「森林の動態とそのメカニズム」

森林総合研究所 中 静 透

経 緯

森林動態に関する研究の歴史は古いが、近年の研究にはいくつかの新たな視点や方法論が見られるようになった。研究の方向としても、木材など森林資源の生産だけでなく、環境としての森林を管理する技術が重要視されるようになり、これまであまり評価されてこなかったメカニズムを考慮する必要がでてきた。これらのメカニズムのいくつかに関しては基礎的な分野での進展も著しく、たくさんの論文や専門書が先を争って出版されている。こうした新しい方法論や手法を知るとともに、森林動態全体のなかで個々のメカニズムがもつ役割を知り、今後の研究の方向を考えたい、というのが今回のワークショップの目的であった。

森林総合研究所では、1989年から農林水産技術会議の大型別枠研究「農林水産系生態秩序の解明と最適制御に関する総合研究（略称：生態秩序、バイオコスモス）」というプロジェクトの一環として、天然林における林産資源の安定生産と森林生態系の保全技術を目指した研究を行ってきた。今回のワークショップも、このプロジェクトを推進する上で、内外の研究動向を知り情報を交換すると同時に、成果の一部を公表するという位置付けになっている。

概 要

ワークショップは9月7-9日、農林水産技術会議事務局と森林総合研究所の主催で、森林総合研究所を会場と



写真 1 開会のあいさつをする農林水産技術会議の三輪研究総務官

して約120名（うち国外から13ヵ国22名）が参加して行われた。参加者のうち国外12名、国内8名は主催者側から参加と講演を招請した。招待者は森林総合研究所で決定したが、いわゆる大教授ではなく、研究の第一線で現在活躍中の研究者にお願いするように心がけた。どの方にも快く引き受けていただき、開催する側としては非常に嬉しく思った。

国外からは、招待者に加え、直前に開催された国際植物学会議（8月28日-9月3日、横浜）や他の理由で来日中であった方々の参加があり、考えていた以上の参加者数になった。国内からは、大学院の学生など若い方に数多く参加していただき、今後の研究の方向を考えるというワークショップの目的を理解してもらえたものと喜んでいる。

最初の2日間に4つの講演によるセッションとポスターセッションが、3日目にエクサカーションが行われた。森林動態のメカニズムを考えて、1) 生理生態的メカニズム、2) 個体群動態および相互作用、および3) 攪乱の役割という3つのセッションを設け、こうしたメカニズムを検証する意味から、4) 長期継続研究、というセッションを別に設定した。

生理生態的メカニズムについてのセッションでは4つの講演があり、ひとつの森林群集に共存する樹種間の生理生態的な違いを実験的に解明しようとした研究（Lechowicz *et al.*）や、精密なデンドロメータを用いた樹木の肥大成長の測定（Tabuchi & Takahashi）、大気汚染に対する反応（Matyssek *et al.*）、ガス交換を基礎にしたモデル（Kakubari）などが報告された。最も活発な質疑のあったセッションだと思う。

個体群動態と相互作用のセッションでは9つの講演があり、内容も広がった。動物と植物の相互作用に関する話題（Kamitani *et al.* ; Kominami *et al.* ; Takatsuki & Hirabuki ; Stiles）のほか、種子の風散布（Tanaka *et al.*）、樹木の生活史やデモグラフィーに関するもの（Ohkubo *et al.* ; Martinez-Ramos ; Isagi）、日本と北米の縮枯れの比較など、個人的には興味深い研究が多かった。

攪乱に関するセッションでは、攪乱レジームと林分の構造（Lorimer & Frelich ; White ; Yamamoto ;



写真 2 ポスターセッション風景



写真 3 エクスカーション風景

Oliver), 個体群レベルでの攪乱に対する適応 (Tanouchi *et al.*; Osumi *et al.*), 年輪解析による攪乱の歴史 (Peters), 攪乱と樹木の地理的変異 (Hiura) などに関する講演が行われた。二日目に入って、日本の研究者からの質問も多くなった。

長期継続研究とのセッションでは、ロシアでの研究例 (Abaimov *et al.*), 大規模な風倒の後の植生変化 (Ishizuka *et al.*; Allen *et al.*), 森林動態のモニタリング手法 (Koop) などについて講演が行われた。樹木は寿命が長く、稀な現象の影響が長く残る。あらためて長期間の継続観測のもつ意義を感じるセッションであった。

ポスターセッションでは10編の発表があり、集会の規模が小さかった分、密度の濃い議論ができたようだ。生理生態的な機能からのアプローチ (Kakubari *et al.*; Koike *et al.*; Lei *et al.*), 土壌の酸性化やオゾンなどの影響 (Kitao, *et al.*; Tjoelker *et al.*), 個体群の構造とデモグラフィ (Osawa; Niiyama), 攪乱の影響 (Frelich & Reich; Mizunaga; Ida & Nakagoshi) など、日頭発表のセッションと関連した内容の発表であった。

総合討論は、Dr. Oliver と大沢晃氏にお願いした。Dr. Oliver の配慮であろうと思うが、比較的日本の研究者の参加しやすいトピックスでの討論になった。ワークショップの後半には国内参加者の質問や発言も増えた

が、国外からの参加者に比べるとやはり少なく、やや残念に思った。とはいえ、お世辞もあるだろうが、日本の研究者レベルの高さを指摘する声を何人もの国外参加者から聞いた。ことばのハンディはあるが、日本の研究者にはもっと外に向けた研究の発信が必要だと感じた。

翌9日は、台風が近づく中、約70名というたくさんの方の参加を得て、小川学術参考保護林へのエクスカーションを強行した。歩き初めには小降りの雨だったが、しだいに雨足が強くなり、何人かはびしょ濡れになるほどであった。にもかかわらず、多くの人から興味深かったとのコメントをもらい、一同で皆さんのやさしさに感激している。

セッション中では少なかった国内参加者の発言も、レセプションやエクスカーションを通じ、互いに顔見知りとなった後には、かなり密度の濃い話ができたとの声がたくさん聞いた。直前に行われた国際植物学会議と比較するとよくわかるが、このような小さな集会の最大のメリットは、こうした親密なコミュニケーションが可能な点であると思っている。

最後に、このワークショップに参加、発表し、討論に参加していただいた方々、また、開催にあたり尽力された、農林水産技術会議事務局の方々、森林総合研究所の方々に感謝いたします。

S4.02, S4.04, S4.11 ユフロ・ソウル・シンポジウム

「森林計測と森林経営」

森林総合研究所林業経営部 天野正博

去る9月20日～25日の6日間の日程で、韓国のソウル国立大学において上記のシンポジウムがあり、12ヶ国から約150名が参加しました。大会議長が日本林学会や日本森林計画学会の会員であり、名古屋大学への留学経験もある権五福江原大学名誉教授でしたので、日本からの参加者が24名と外国からの参加者の半数以上を占めました。研究発表は全部で49ありましたが、発表時間が1人30分と比較的ユッタリしたスケジュールで進んだこともあって、日本からの参加者には英語での発表が初めてという若い研究者が多かったのですが、彼等には好都合なことでした。

第1日目から第3日目の午前迄のペーパーセッションは、リモートセンシングや地図情報処理システムを含んだ森林資源調査体系や林分生長モデル、都市近郊林の取扱い・地球温暖化についての研究発表でした。第4日目は、林業経営や森林計画、森林の公益的機能の経済的評価等についての発表があり、シンポジウムとしては幅の広い発表内容であったと思います。なお、ペーパーセッション全体の印象としては、発表内容が欧米・アジアともに森林の環境面の研究に大きくシフトしており、今後は森林の木材生産と環境保全を調和させていくような研究が中心になっていくことを示唆していました。また、韓国はこのところ海外に数年～10年近く滞在していた研究者の帰国ラッシュにあたっており、英語に堪能な若手研究者が多く、積極的に発表後の質疑応答に参加していました。私を含めて海外経験が少ない日本の研究者はどうしても討議の輪に入り難いのですが、韓国の研究者のこうした積極的な姿は、日本の研究者にとって大きな刺激を与えてくれました。

大会第3日目の午後、ハーフディ・ツアーで韓国林業研究院の中部支所が運営している森林博物館を訪れました。建物や展示品は質・量ともに我が国にあるものより格段にレベルが高く、現在の林業研究院の趙院長が先頭に立って、多数の研究員を動員して建設したと聞きました。その魅力は、年間の入館者数が100万人という数にも表れており、今後韓国を訪問される林学関係の方は是非

非訪問して頂きたいと思います。ハーフディ・ツアーの最後に博物館と同じ敷地内にある Korean Pine の林の中に設けられたブルコギのバーベキュー（韓国風すき焼き）・パーティーを各国の参加者で楽しみ、ペーパーセッションの疲れを治しました。最後はパーティーの設定を手伝った韓国女性のコーラスと、岐阜大学の林進先生のロシア民謡を聞いて帰途につきました。30数キロの道のりをバスで3時間以上かかるというソウル名物の交通ラッシュも体験することができました。

ペーパーセッションが終了した後、各研究発表や討議を取りまとめた勧告文が出されました。それは都市化、モニタリング、多目的利用と生態系管理、環境保全と多様性、森林資源の空間的分析、地球温暖化、緑地再生といった森林の環境面での動きに焦点をあてたものでした。5日目と6日目の2日間に渡ってエクスカージョンがあり、東海岸の38度線及び朝鮮民主主義人民共和国との国境にある統一展望台を見学し、韓国の山岳観光地では最も人が多く訪れる雪岳山国立公園内にあるホテルに泊りました。翌日は国立公園の中を歩いた後、江原道のチョウセンマツ (*Pinus koraiensis*) やカラマツ (*Larix kaempferi*) の人工林地帯をバスで抜けてソウルに戻りました。距離的に2日間では多少きつい日程でしたが1973年から始まった第1次～第3次緑化計画によ



写真4 統一展望台でのエクスカージョン参加者

り、短期間でハゲ山を緑に変えることに成功した韓国の緑化事業の実態を垣間みることができました。バスの中での説明によれば、韓国の急速な経済成長、薪炭材から化石燃料への燃料革命が、短期間で国土緑化に成功した背景にあるとのことでした。

今回のシンポジウムは、30代前半の若い韓国の研究者

によって運営され、IUFRO 京都大会以降に日本の研究者の国際シンポジウムへの参加が急増したように、将来は彼等が積極的に国際シンポジウムに参加するようになるだろうと思います。日本人よりも格段に英語の会話能力が高いだけに、余計にそう感じました。

(研究集会報告)

S 2.06-06 and S 2.06-14 “ナラ・カシ類の衰退に関する研究の最近の進歩”

イタリア、セルバドファサノ、1992年9月

1992年9月13-18日、イタリアで上記の国際会議が開催された。IUFRO NEWS 22巻2号に内容が報告されたので概略を紹介する。

会議には20カ国、120人が参加し、60の講演発表と13のポスター発表が行われた。全体的な討議の中で次のような結論が出された。

1. ナラ・カシ類の衰退現象は過去100年間、ヨーロッパ諸国および他の諸国で周期的に起こってきた複合的な症候群である。その病原はまだ完全には分かっていない。しかし最近2年間は被害は緩和されているようである。

2. ヨーロッパ諸国、さらに北米でもこの現象の病徴にはいくつかの類似点があるが、被害と関係した霜害、干ばつ、大気汚染、根系の病害などの要因については地域によって大きな違いが見られる。

3. 現在までの研究結果から、木のストレスを起こす全ての要因が木の活力を弱め、そのような木は二次的な菌類や昆虫類によって容易に被害を受け易いということが言えそうである。

4. 造林上の適切な施業の欠如によって林分が過密になる。それによって南ヨーロッパのような乾燥地ではナラ・カシ類の衰退が起こり易くなる。衰退の徴候がみられるようになったら予防的に木を切り、萌芽の活力を高めるようにすべきである。

5. 無病徴の樹体内に存在するエンドファイトの、衰退における役割がいくつかの発表で言及された。

6. *Hypoxyton mediterraneum*, *Diplodia mutila*, *Fusarium eumartii*, *Ophiostoma* や *Ceratocystis* 属菌などの弱い病原菌の役割が指摘された。ならたけ病菌類の疫学的な面もさらに解明する必要がある。

7. イベリア地域の急速なナラ・カシ類の衰退と関係して、一般的には一次的な病原性を持つ *Phytophthora cinnamomi* が発見された。この菌の役割も明らかにする必要がある。

8. 会議で発表された病理学、生態生理および他の幅広い研究によって、この複雑な病害のいくつかの側面が明らかになりつつあり、この種の共同的研究の必要性が確認された。

9. EEC, EPPO, IUFRO のなかでの国際協力とともに、会議結果の政府研究機関への普及が推奨された。

この会議のプロシーディングスはイタリアで発行されるが、インフォメーションは下記で得られる。

Dr. N. Luist

Chairman of the Organizing Committee

Dipartimento di Patologia Vegetale

Universita degli Studi

Via G. Amendola, 165/A, 70126, BARI, Italy

(紹介:金子 繁)

ユフロ国際研究集会の開催のお知らせ

熱帯林の成長

日 時：1994年9月27日～10月1日

場 所：東京農工大学

主 催：ユフロ第4部会・森林計画学会

この研究集会の目的は、(1) 熱帯・亜熱帯の天然林、人工林の成長と収穫、経営、環境に関する研究者が集まり、(2) 現在までに得られた知識水準を評価し、(3) モデル、データベース、プログラムなどの研究手法の

情報を交換し、(4) 研究の必要性とその発展を促進し、(5) ユフロ開発途上国特別委員会 SPDC が作成する「熱帯林データベース」へ成長と収穫の情報を提供することです。

この集会への参加あるいは研究発表の希望者、あるいは詳細資料を必要とする人は「名前と住所」を下記へ連絡下さい。案内をお届けします。

〒183 府中市幸町3-5-8 東京農工大学農学部

木平勇吉

FAX: 0423-64-7812 電話: 0423-64-3311

IUFRO のグループの構成に、新規、変更、廃止など変更がありましたので、
変わった部分だけ掲載します。(IUFRO News Vol. 22 No. 1 より)

IUFRO の構成

< DIVISION 1 > 森林環境と造林

S1. 01-01 老齢林と森林保全 (変更) S1. 02-05 林地における廃材の再利用 (変更) S1. 03-01 森林気象と気候学 (変更) S1. 03-03 環境影響の地球的視野 (新規) S1. 03-04 森林への風の影響 (新規) S1. 05-15 maritime pine (フランスカイガンショウ) の取扱い (新規) S1. 07-18 アカシヤの造林と施業 (新規) P1. 09-01 エネルギー利用のための温帯林短伐期施業総合調査 (新規) P1. 09-02 エネルギー利用のための熱帯林短伐期施業 (新規) P1. 15-01 温帯のアグロフォレストリー (新規) P1. 15-02 熱帯のアグロフォレストリー (新規) P1. 15-03 基本調査とモデリング (新規) P1. 15-04 適応研究ならびに社会的研究 (新規) P1. 16-00 生物多様性 (新規) P1. 17-00 退行立地の復旧 (新規) P1. 17-01 採鉱地の開拓 (改良) (新規) P1. 17-02 復元生態学 (新規) P1. 17-03 熱帯荒廃二次林の復旧 (新規) P1. 17-04 乾燥、半乾燥地の復旧 (新規)

< DIVISION 2 > 生理学、遺伝学と保護 (変更)

S2. 01-10 木部生理学 (新規) S2. 02-10 ポプラとヤナギ属の産地と育種 (変更) S2. 05-03 (廃止) S2. 05-06 樹木の昆虫に対する抵抗性機構 (変更) S2. 07-11 森林食葉性昆虫の総合管理 (新規) P2. 05-06 野生動物と生

態に対する生物的ストレス、影響との相互作用 (新規)
P2. 05-09 (廃止)

< DIVISION 3 > 森林作業・技術

S3. 07-01 収穫と材質 (変更) P3. 07-03 収穫と造材 (変更) P3. 08-01 森林作業がもたらす林地への影響 (新規) P3. 08-02 不安定な林地における森林作業 (新規) P3. 08-03 林地保護と改良のための方法と技術 (新規)

< DIVISION 4 > 資源量調査、成長、収穫量、量的、経営科学

S4. 11-03 情報管理 (変更)

< DIVISION 5 > 林産

S5. 02-01 木材の非破壊検査 (新規) S5. 04-06 木材乾燥 (新規) P5. 08-00 木材生産と加工におけるコンピュータの利用 (新規)

< DIVISION 6 > 社会、経済、情報、政策科学

S6. 01-02 計画と経営 (変更) S6. 01-04 社会学と政策研究 (変更) S6. 06-04 施業における教育と研究 (新規) S6. 07-04 生態学史 (新規)

これからの研究集会予定 (IUFRO News Vol. 22 No. 2/3 より)

IUFRO の研究集会

Division 1

P1. 11-00 (地中海灌木生態系): Conference on Global Climate Change and Tropical Rainforests (地球気候変動と熱帯降雨林に関する会議) /? 1994, Ibadan, Nigeria

P1. 10-00 (ブナの育種と造林): Symposium on Beech Forests (ブナ林に関するシンポジウム) /? 1994, instead of UKraine, probably Denmark

S1. 07-15 (乾燥・半乾燥地域の造林・管理): Silviculture of Protection Forestry in Arid Regions and the Agroforestry Potential (半乾燥地造林とアグロフォレストリーの可能性) /Mar 21-24 1994, Change of dates, Alexandria, Egypt

S1. 03-01 (森林気象学・気候学): Atmospheric Influences on Growth (成長に対する大気の影響) /1994, Summer (Rescheduled) Canada

P1. 16-00 (生物多様性): Measuring and Monitoring Biodiversity in Tropical and Temperate Forests (熱帯と温帯林における生物的多様性の測定とモニタリング) /Aug 21-27 1994, Chiang Mai, Thailand

P1. 16-00 (オークの育種と造林): Environmental Constraints on Oaks - Ecological and Physiological Aspects (カシ類への環境影響-生態学, 生理学的な視点から) /Aug 29-Sep 1 1994, Nancy, France

S1. 03-02 (森林水文学): International Symposium on Forest Hydrology (tentative titli: Headhollow Hydrology) (森林水文学国際シンポジウム (仮称: 源流水文学)) /? 1994, Japan

S1. 03-00 (環境影響); S2. 04-00 (遺伝学): Scaling up Problems/Advective Influences in Forest Terrain (森林地域への移流影響-その増加傾向問題) /? 1994,

S1. 07-14 (アフリカの人工林造林): Conference on Plantation Silviculture to Protect Natural Forests (自然林保護のための人工造林に関する会議) /? 1994, Senegal or Ivory Coast

Interdivisional (?): Barriers to Integration of Cross-disciplinary Research in Bioenergy (バイオエネルギーに関する領域間研究の総合化をはばむもの) /1994, Turrialba, Costa Rica

S1. 01-06 (熱帯・亜熱帯森林生態系): Workshop on Tropical and Subtropical Ecosystems (熱帯亜熱帯生

態系に関するワークショップ) /? 1994, Berlin, Germany

Division 2

S2. 05-06 (植物の抵抗性機構); S2.07-05 (キクイムシの総合防除); S2. 07-06 (森林昆虫の個体群動態): Mechanisms of Woody Plant Defences against Herbivores (草食動物に対する樹木の防御機構) /Feb 2-5 1994, Change of dates, Kihei, Wailea, Hawaii

S2. 07-05 (キクイムシの総合防除); S2.07-06 (森林昆虫の個体群動態): Behavior, Population Dynamics, and Control of Forest Insects (森林昆虫の行動、個体群動態とのコントロール) / Feb 6-11 1994, Change of dates, Maui, Hawaii

S2. 04-06 (森林樹木の分子遺伝学): Sixth Workshop of the IUFRO Working Party Molecular Genetics of Forest Trees (林木の分子遺伝学ワーキングパーティー第6回ワークショップ) /May 21-24 1994, Scarborough, Maine, USA

P2. 05-07 (汚染地域における造林): Work shop (ワークショップ (環境汚染地域の造林)) /Jun 1994, Krkonose, Czech Republic

S2. 01-00 (生理学): Environmental Constraints on Oaks (オークに対する環境圧力) /Aug 29-Sep 1 1994, Nancy, France

P2. 05-00 (大気汚染の森林生態系に与える影響): Air Pollution, Multiple Stress and Predisposition to Tree Decline (大気汚染、複合ストレスと樹木の衰退) /Sep 7-9 1994, Fredericton, New Brunswick, Canada

S2. 02-18 (ヨーロッパアカマツの産地と育種); Ministry of Forestry of the Lithuanian Republic and Lithuanian Forest Research Institute: International Symposium on Scots Pine Provenances and Breeding and Selection (ヨーロッパアカマツの産地、育種、選抜に関する国際シンポジウム) /Sep 13-17 1994, Kaunas-Girionys, Lithuania

S2. 06-10 (マツのさび病): Rusts of Pine Working Party Conference (マツさび病ワーキングパーティー国際会議) /Oct 2-7 1994, Tukuba, Ibaraki, Japan

Division 3

P3. 03-00 (労働科学); ILO; PET; University of Concepción: Regional Training Course: Introduc-

tion to Ergonomics (地域トレーニングコース: 人間工学入門) /Jan 1994, Concepcion, Chile

S3. 06-00 (山岳条件での森林作業); S3. 05-00 (熱帯における森林作業); Pakistan Forest Research Institute: Improving Planning, Road Building & Harvesting Methods in the Himalayan Region (ヒマラヤ地域における施業案、道路建設および収穫法の改良) /Spring 1994, postponed to 1996, Peshawar, Pakistan

S3. 02-03 (苗畑作業); Forest Research Institute of Malaysia: Forest Nursery Operations in Tropical Countries (熱帯諸国における苗畑作業) /Apr 1994, cancelled, Kuala Lumpur, Malaysia

P3. 03-00 (労働科学); Federal University of Paraná: ILO: Ergonomics, Safety and Health in Plantation Forestry (育成林業における人間工学、安全と健康) /May 1994, Curitiba, Brazil

P3. 03-00 (労働科学); ECE/ILO/FAO Joint Committee: Ergonomics, with Special Attention to Personal Protective Equipment (個人保護具に注目した人間工学) /May 1994, Finland

P3. 03-00 (労働科学); S3. 05-00 (熱帯における森林作業); S3. 06-00 (山岳条件での森林作業); P3. 08-00 (森林作業と環境保護): Forest Operations under Mountainous Conditions, with special attention to Ergonomics, Accessibility and Environmental Protection (人間工学、到達性および環境保護に注目した山岳地帯における森林作業) /Jul 24-27 1994, Harbin, China - Beijing

P3. 08-00 (森林作業と環境保護); FORSITRISK Working Group FAO/ECE/ILO: Interactive Seminar and Workshop on Soil, Tree, Machine Interactions in Forest Operations; (森林作業における土壌、樹木、機械の相互作用についての共同セミナーと講習会) /Jul 4-9 1994, Feldafing, Germany

P3. 03-00 (労働科学); Forestry Engineering Dept. of Oregon State University: Harvesting, Wood Delivery and Utilization (収穫、木材輸送と利用) /Jul/Aug 1994, Corvallis, Oregon, USA

S3. 02-03 (苗畑作業); potentially a joint meeting with other WP's; hosted by the Ontario Forest Research Institute: Planting Stock Quality (山行苗の品質) /late 1994, Ontario, Canada

S3. 02-03 (苗畑作業): Pre-XXth Congress meeting on Afforestation of First Rotation Sites - Production of Appropriate Seedlings, Seedling Establishment, and

Stand Treatment (初回ローテーション林地の植林20回大会のプレミーティング-適した苗木の生産、育種と保育) /Aug 1-12 1994, Garpenberg, Sweden and Tampere, Finland

S3. 02-03 (苗畑作業); possible collaboration with S3.02-01 (造林作業): Nursery Operations (苗畑作業) /? 1996, India

Division 4

S4. 02-03 (継続的森林資源量調査): Minimum Data Requirements for Sustainable Forest Management (持続的森林管理のための最少必要データ) /Apr 24-30 1994, Stellenbosch, South Africa

S4. 11-00 (統計手法、数学、コンピュータ); S4. 02-00 (森林資源量調査とモニタリング): Assessment of Non-Timber Resources and 'Simplicity versus Efficiency' (非木材資源の評価及び単純化と効率化) /May 2-7 1994, Monte Verità, Ascona

Working groups of S4. 01-00 (測定、成長、収穫量): Mixed Stands: Research Plots-Measurement and Results-Models (混交林: 調査プロット-測定と結果-モデル化) /Apr/May 1994, Lousa/Coimbra, Portugal
S4. 02-00 (森林資源量調査とモニタリング); S4. 04-00 (森林経営計画・経営経済学); S4. 11-00 (統計手法、数学、コンピュータ): Spatial Accuracy of Natural Resource Data Bases (天然資源データベースの空間情報の精度) /May 15-19 1994, Williamsburg, Virginia, USA

S4. 02-00 (森林資源量調査とモニタリング): Sixth International Congress of Ecology-Frontiers of Statistical Ecology and Ecological Statistics (統計的な生態学と生態学的統計学のフロンティア第6回国際会議) /Aug 20-26 1994, Manchester, UK

S4. 02-00 (森林資源量調査とモニタリング): Resource Technology '94-Decision Support 2001 (資源と技術'94意志決定支援2001) /Sep 12-16 1994, Toronto, Canada

S4. 02-06 (北方地域の資源データ); in conjunction with the Soc. of American Foresters/Canadian Forestry Institute National Convention: Boreal Forests: Meeting World Needs (亜寒帯林: 世界のニーズに応えて) /Sep 18-21 1994, Anchorage, Alaska

S4. 04-00 (森林経営計画・経営経済学): Management Planning and Managerial Economics (経営計画と経営の経済学) /Sep 1994, Vienna, Austria

Division 4

(資源量調査, 成長, 収穫量, 量的, 経営科学) : Growth and Yield of Tropical Forests (熱帯林の成長と収穫) / Oct 1994, Location to be selected

ISPRS Commission VII Symposium ; co-sponsored by S4. 02-00 (森林資源量調査とモニタリング) : Resources and Environmental Monitoring (資源と環境のモニタリング) / Oct 3-7 1994, Rio de Janeiro, Brazil

S4. 02-00 (森林資源量調査とモニタリング) ; S3. 02-00 (造林・保育作業方法) ; S3. 05-00 (熱帯における森林作業) ; P3. 08-00 (森林作業と環境保護) : Sustainable Forest Management (持続的森林の管理) / Oct 17-21 1994, Furano Hokkaidou, Japan

S4. 01-04 (樹木・林分のシミュレーションのための成長モデル) : Growth Models for Policy Making (政策決定のための成長モデル) / Oct 1994, Prague, Czech Republic

Division 5

S5. 02-00 (木材工学) : Timber Engineering-Ordinary Meeting (木質構造定例会議) / Jul 5-7 1994, Sidney, Australia

S5. 04-11 (木質複合材料) : Second Pacific Rim Biobased Composites Symposium (第2回環太平洋生物材料シンポジウム) / Oct 1994, Vancouver, BC, Canada

S5. 01-00 (材質) : Latin American Botanical Congress (ラテンアメリカ植物学会議) / Oct 1994, Argentina

Division 6

S6. 12-03 (総合的土地利用と林政) : Mediterranean Institute of Zaragoza, Spain : Environmental and Land Use Issues in the Mediterranean Basin : An Economic Perspective (地中海地域における環境と土地利用問題: 経済的な展望) / Feb 7-9 1994, Zaragoza, Spain

S6. 03-00 (情報システムと用語) ; ENGREF, INRA, INIST : Retrieval and Exchange of Scientific Forestry Information in Europe (ヨーロッパにおける科学的林業情報の検索と交換) / Mar 14-18 1994, Nancy, France

S6. 06-00 (森林研究の運営) : Management of Forest Research (森林研究の管理) / ? 1994, South Africa/ Zaire

ユフロ-J 会務の引継ぎについて

先般、森林総合研究所長、勝田^{カツタ}征氏のご退職により、小林一三氏が新たに所長に就任されました。これに伴いユフロ-Jの会務を勝田氏から小林氏に引継ぐことにつきまして、この度、幹事機関のご了承を頂きまし

た。次回の機関代表会議において正式に議長としてご承認いただく予定ですが、各機関並びに会員各位のご了承をお願いいたします。

(事務局)

会費納入のご案内

今年度(1993.4.1~1994.3.31)のIUFRO-J会費の納入を受け付けています。納入方法はこれまでと変わりません。B会員機関で請求書などが必要な場合は、書式等を含めてお知らせ願います。

・銀行送金：関東銀行^{カンゴウ}牛久支店 普通口座 697583
IUFRO-J事務局 小林^{カズミ}一三

・郵便振替：東京・9-159224 IUFRO-J事務局
(郵便振替の場合は指定用紙の利用により振込料は無料になります。御入用の方はお知らせ下さい)

(事務局)

IUFRO Development Fund への拠出報告

4月6日、岩手大学で開かれた本年度の機関代表会議で、事務局から提案され承認された方針に基づいて、送金手数料を含め1,045,700円を特別会計より支出し、

IUFRO Development Fund への拠出金として10,000ドルをIUFRO会計事務局宛送金しました。(事務局)

◆ユフロ活動協力基金による助成募集◆

IUFRO-J News No. 18 に掲載されているユフロ活動協力基金による助成募集要領に基づいて、平成6年度の助成希望者を募集しますので、ご関係の会員の方は3月15日までに応募されるようお知らせします。

なお助成者の決定は書類審査により選考し、機関代表者にお知らせします。

ユフロ活動協力基金による助成募集要領

ユフロ活動協力基金特別会計運営要領第3条による助成を次の要領で募集します。

1. 助成の対象（運営要領第3条による）
本基金の目的を達成するため、次の項目について旅費及び会議開催に要する経費の助成を行う。
(1) ユフロが開催する世界大会、分科会、及び専門研究会等の研究会等への出席。
(2) ユフロ理事会への出席及び同評議員会へ日本代表としての出席。
(3) 我が国における上記(1)、(2)の会議の開催
2. 助成を受ける資格
ユフロ-JのA、B会員機関に所属、登録されている研究者およびC会員。
3. 応募の手続き
2月末日までに、次年度内に予定されている集会について、様式(A)または(B)によって申請書を作成し、財団法人林業科学技術振興所々長（〒102 東京都千代田区六番町7 日本林業技術協会別館）あてに提出する。
ただし、他に助成を申請中、または公費出張応募の場合にはその旨を添え書する。また会議開催費の助成申請については、助成を希望する項目と金額を明記する。
4. 選考
書類審査により助成者を決定し、3月末日までに通知する。
5. 助成の内容
会議参加については、1件の助成額は原則として30万円を限度とする。会議開催費についてはその都度検討する。
6. 報告書
助成を受けたものは、会議終了後1か月以内に集会の概要（400字詰、10枚程度）をまとめて林業科学技術振興所々長（前掲）あて提出する。
7. 決定後の辞退
会議参加の場合、助成決定後でも、公費あるいはそれに準ずる他の助成がえられた場合は、本基金の助成を辞退願うものとする。なお、辞退者があった場合には、選考に洩れた申請者のうち、次位のことを繰上げて助成する。

申請用紙（A、Bとも）はIUFRO-J事務局ならびに林業科学振興所に備えてあります。

<IUFRO-J Newsの原稿を募集しています。>

IUFROの研究集会等の開催予定や、参加報告など、会員にお知らせしたい記事をお寄せ下さい。また、研究会等に参加された方を御紹介できれば、事務局から執筆をお願いすることもできます。IUFROの情報を効率的に交流するために御協力をお願い致します。
(事務局)

IUFRO-J News No. 50 平成5年11月5日
国際林業研究機関連合日本委員会事務局
茨城県稲敷郡茎崎町松の里1 森林総合研究所内
TEL 0298-73-3211 (232) [編集・発行]